

山陽道を歩く

昔、山陽道は人の往来でにぎやかであつたと思われる。大正末期から昭和初期にかけての街並みのわずかに残つたその名残を思い浮かべながら山陽道を歩いてみよう。

高根

中野

福岡・市

免地



昭和初期の嘉川

子供たちの遊びと小学校行事



小学校の行事



嘉川地区の神社・仏寺の行事



上嘉川、中市、市

吉村薬局西側には、白壁で囲まれた立派な門構えの中には部屋があり、役人が(参勤交代を含め)休憩したと思われる。

◎恵比寿神社

恵比寿神社は、嘉川市(上嘉川、中市、市)の鎮守として祀られたものであろう。祭礼は、ゆ伽祭または二十三夜祭と言われるように昔は陰曆六月二十三日夜に行われていた。

昔、農家にとっては田の草取りが一段落した頃で骨休みと夕涼みを兼ね祭りを楽しんだものである。

上嘉川から市までの旧山陽道の両側に夜店が並び大変賑わった。



◎荒神峰

旧山陽道の免地から上嘉川にかけて曲がりくねった急な坂があった。当時、車馬の往来に大変苦労したと聞いている。

ある旧家の庭に大きな庭石を搬入する際、荷崩れして台車が破損し庭石も一部割れたがどうにか運んで据え付けたと聞いたことがある。



山陽道における嘉川市

山陽道の道幅は長州藩では2間と定められ、道の両側には往還松が植えられていた。また大行列や旅人の旅程の目安として一里塚が設けられていた。

山陽道における嘉川近辺の本宿は、東から西へ宮市→小郡→山中→舟木と続き、それぞれに半宿がおかれた。小郡～山中の間には、嘉川市がおかれ馬継ぎの役目をはたし馬宿が常備されていた。(「ふるさと嘉川」より)

幕末の嘉川

幕末には尊皇攘夷や討幕の思想に燃える志士たちが長州を基って集まっていた。嘉川市の明正寺にも土佐・芸州・肥後・播州赤穂などから脱藩してきた志士たちが20名近くも駐屯していた。志士たちは、近所の子供を集め花火を作り遊ばせたり武道を教えたりもした。恵比寿様の祭りのとき、若者を相手に相撲を取ったという話も伝わっている。忠勇隊や遊撃隊に所属したとの記録がある。(「嘉川の文化財」杉山正實著より)

坂本龍馬とのかかわり

残念ながら直接の龍馬と嘉川には直接かかわりは無いものの萩博物館高杉晋作資料室長 一坂太郎/著『龍馬が愛した下関』によると

【1866年8月5日(慶応2年6月25日)】(龍馬:満30歳7ヶ月/数え32歳)
龍馬は、下関から山口までは山陽道を東進し、山口に到着する。山口城(山口政事堂)にて長州藩主・毛利敬親に拝謁し、羅紗生地などを拝領する(慶応2年7月3日まで滞在する)。1866年8月12日(慶応2年7月3日)龍馬は山口を出発し、小郡(山口県山口市小郡)を経て、下関に向かう。